まだまだある霊場のあしあと

歩いてまわっていると、３８番（西福寺）、４５番（善照寺）、５３番（安養院）でも紹介した、白い石柱（せきちゅう）が道端に建っているのを見かけることがあります。

39番（真福寺）から40番（西善院）に向かう道（谷口）

44番（迎攝院）近くの彦成通り
奥の石柱は番匠免神明神社の敷地内にある

石柱の表面を見てみると、「☞八十八」などの文字が刻まれています。これらの石柱も八十八箇所霊場（はちじゅうはちかしょれいじょう）の道しるべの一つで、八十八箇所霊場がある道に沿うように、市内各地で確認することができます。

普段何気なく通り過ぎている石柱が、実は歴史を今に語りかけているものであるとわかると、ロマンを感じませんか？